

教員名

森藤 ちひろ

企画名 吉野町シェアリングエコノミーサポート

地域活性化型
自治体・国
住民組織



吉野まちじゅう図書館
ガイドブック
あなたの暮らしが図書館に



企画・活動概要

本企画では、奈良県吉野郡吉野町で実施されているシェアリングエコノミーを活用した地域課題解決プロジェクトの一つ「吉野まちじゅう図書館」の支援を行いました。具体的には、図書館の運営者の方々にお力を借りながら、町内外の多くの方々に個性豊かな素敵な図書館を紹介し、ご利用頂けるよう、ガイドブックを作成しました。また、新たに図書館を立ち上げようとしている方を後押しする開設マニュアル(電子ブック・動画)を制作しました。学生たちは、その活動を通して住民主体の課題解決を実践的に学びました。

「吉野まちじゅう図書館」とは、誰もが図書館と同じように書籍の貸出し管理を行えるウェブ上のサービスを利用して、住民らが自分の持ち物も含めて共有する図書館です。図書館を運営するのは町の住人です。吉野町は、まちじゅうに個性的な小さな図書館が次々に生まれ、本の共有をきっかけに人の交流や新たな発見が生まれることを目指しておられます。それらの図書館は、住民のためだけでなく、旅人の新たな目的地にもなったり、交流人口を増やすきっかけにもなったりする可能性が期待されています。

経緯・背景・目的

森藤ゼミでは、サービスマーケティングとソーシャルマーケティングを実践的に学ぶ活動を行っています。2019年度は奈良県吉野郡吉野町にて若者のホームステイによる地域貢献の可能性を模索しました。ホームステイは訪問者が地域コミュニティに溶け込みやすく、土地と人に対する愛着が芽生えることが確認できましたが、実際の展開には、住民の取り組みへの理解、訪問者と受入先の信頼関係、若者が協働できる仕事の確保が不可欠であることがわかりました。そのため、2020年度は吉野町で推進されている「吉野まちじゅう図書館」プロジェクトに加えて頂き、地域の方との交流を深めたり、地域の課題を肌で感じたりしたいと考えました。また、「吉野まちじゅう図書館」が住民同士、あるいは住民と訪問者の交流の拠点になれば、図書館がホームステイで地域の人手不足を助ける取り組みのニーズを集められる場所になると考えました。将来的に、2019年度と2020年度の活動が連携できる取り組みに発展させられるような活動を目指して進めました。

2020年度はコロナウイルスの影響で活動が制限されることが予測されたことから、現地での活動が難しい場合でもオンラインに軌道修正できる、マーケティング・コミュニケーションを支援する活動を計画しました。

もくじ

1. 用意するもの 1
2. リプライズの登録方法 2
3. 図書館の開設方法 8
4. 本の登録方法 11
5. パーコードがない書や読みとれない本の登録方法 16
6. 本の貸出方法 23
7. 本の返却方法 27
8. 図書館開館のご案内 28

Step.1 用意するもの

- ①パソコン
usbポートがあるパソコンなら可能です。
- ②Facebookアカウント
お持ちでない方は新規作成が必要です。
- ③パーコードリーダー
リプライズに本を登録する際に使います。
※ccdタイプのみに対応できます。

【吉野まちじゅう図書館に関する情報】

「図書館の立ち上げ方」動画もあります。
その1 リプライズの登録方法
その2 本の登録の仕方
その3 本の貸し方 本の借り方



取り組み課題

学生たちは本企画の活動を通して吉野町住民の住民満足度を高めることを目指しました。学生たちが重視したのは、①住民の暮らしの充実や住民間交流への関心・意欲を後押しする、②まちじゅう図書館を運営する人を増やす、③まちじゅう図書館を利用する人を増やすことでした。

また、吉野町では複数の取り組みにおいてシェアリングエコノミーの考え方が取り入れられていますが、その意義も伝えることができればということもありました。地域住民が主体となって実施する地域活性化の取り組みに、若い力が触媒となれるのではないかと考えました。



本学(学生)の役割

学生たちが初めて吉野町に訪れた時、檜木の香りが漂い、山に囲まれた自然豊かな街並みに心を打たれました。その感動からぜひ活動で魅力ある吉野のことを伝えたいという思いが芽生え、吉野まちじゅう図書館の取り組みに参加させて頂きました。自然や歴史、産業、芸術などさまざまな側面の吉野らしさがあふれる各図書館と、その図書館を運営されている方々のお人柄を町内外に広く知って頂きたいと考えた学生たちは、本企画でデジタルのマーケティング・コミュニケーションのスキルを発揮しました。学生たちは、未整備であったガイドブックの作成に取り組み、個性豊かな図書館の様子と共に、フォトジェニック(写真映えする)な吉野を若者目線で紹介しています。また、図書館を開設したい方がすぐに行動に移せるように、電子ブックと動画を用いた開設マニュアルを制作しています。これらのコミュニケーションツールは、運営者の方々にアドバイスを頂き修正を重ね、幅広い年齢層に受け入れられ、知識やスキルに関係なく理解できるような仕上がりになっています。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

学生たちは、冊子のデザインや構成を検討し、図書館運営者の方々に各図書館の立ち上げの思いやこだわり、今後の構想などについて、対面、電話、メール等で取材し、その情報を原稿に起こし、校正を行い、ガイドブックを完成させました。また、図書館開設のお手伝いを通して、ウェブ上での図書館開設の手続きやPCを用いた書籍の登録などをわかりやすくマニュアルにしてはどうかと考え、実際の様子を録画し、動画と電子ブックを準備しました。その結果、本企画では、『吉野まちじゅう図書館ガイドブック』(A5・見開き16ページ)と『吉野まちじゅう図書館のすすめー図書館開設・貸出・返却の手引きー』(A5・見開き32ページ)の2種の冊子と、『図書館の立ち上げ方 その1 リプライズの登録方法』、『図書館の立ち上げ方 その2 本の登録の仕方』、『図書館の立ち上げ方 その3 本の貸し方・本の借り方』の3編の動画を作成し、2021年3月25日オンライン受け渡し式にて吉野町様にお届けすることができました。

学生たちは、今回の経験で、インタビューの際の傾聴力や情報を見やすく伝える力だけでなく、チームビルディング、時間管理など幅広く能力を開発しました。そして、何よりも住み慣れた地域を愛する人々の気持ちに接し、人々の交流の大切さ、地域の役割を学びました。

ガイドブックの学生たちの挨拶には「吉野まちじゅう図書館で本を通して今までよりも、もっと多くの人と人が繋がることのできたなら、もっと自分が住む町の素敵なところを見つけることができたなら、とても素晴らしいことだと思います。私たちは、この冊子を通して皆さんの日常に、少しでも花を添えることができたら大変嬉しいと思います。この冊子を手にとって頂いた皆さんの毎日が、一層豊かなものになりますように。」と記されていました。



指導教員および関係者の紹介

《ご協力先》

吉野町、吉野まちじゅう図書館運営者の皆様、
吉野スタイル・磯崎典央様、吉野シェア空・澤木久美子様など
・『吉野まちじゅう図書館』事業
<https://www.town.yoshino.nara.jp/oshirase/sogoseisaku/post-151.html>
・吉野まちじゅう図書館
<https://librize.com/yoshino-libraries>



《指導教員》
人間社会学部教授
森藤 ちひろ
博士(先端マネジメント)
・専門領域
マーケティング
消費行動